

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。

安全上のご注意

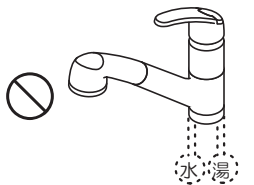
- ここに示した **注意** は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です。

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

注意

湯水を逆に配管しないでください。



水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。



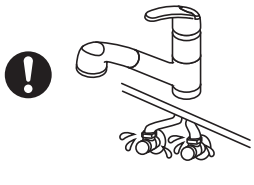
器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水性金具の水抜き操作を行ってください。



凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。配管などの解凍の為、解凍機をご使用の場合は水栓部には絶対に通電しないでください。

施工完了後は、配管接続部及び器具から水漏れのないことを確認してください。



漏水で、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

使用条件

- ① 使用水圧〔A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕
(1)瞬間給湯機との組み合わせ 設定条件 水温:25℃ 給湯機温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開

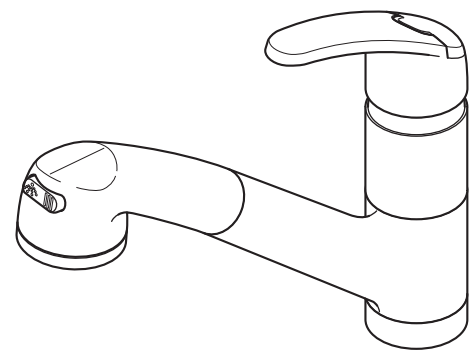
〔比例制御式〕	最低必要水圧	最高水圧
	A+0.10MPa	0.75MPa

- (2)貯湯式給湯機との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕	最低必要水圧	最高水圧
	A+80.0kPa	0.75MPa

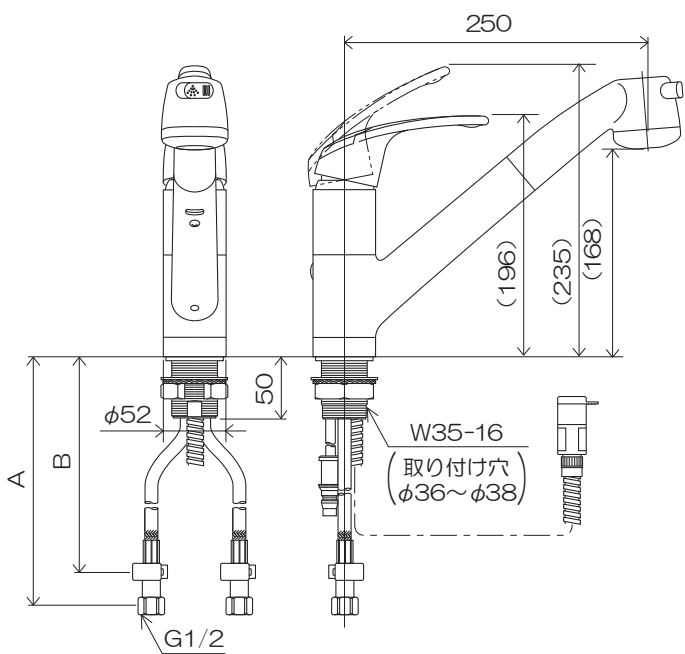
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

本体外観図



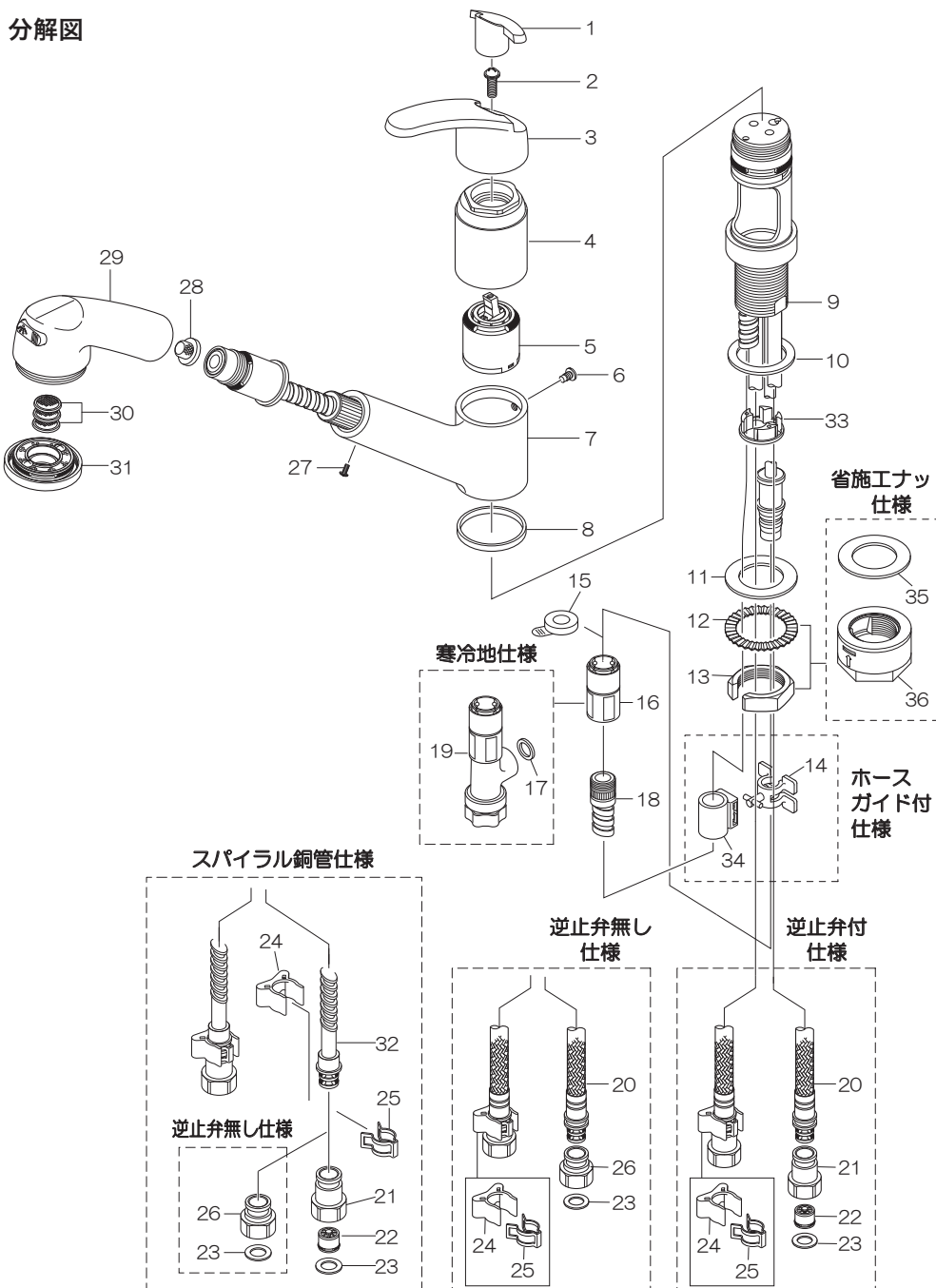
寸法図と分解図

寸法図



	ブレードホース仕様		スパイラル銅管仕様	
A寸法	逆止弁付仕様	逆止弁無し仕様	逆止弁付仕様	逆止弁無し仕様
B寸法	415	402	396	384
	384		365	

分解図



1	キャップ
2	ビス
3	レバーハンドル
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	ビス
7	吐水口
8	スリップ板
9	本体
10	シートパッキン(白)
11	輪パッキン(黒)
12	菊座
13	六角ナット
14	ホースガイドA
15	キャップ
16	カバーユニット
17	パッキン
18	シャワーホース
19	水抜きユニット
20	ブレードホース
21	ジョイント
22	逆止弁
23	パッキン
24	保護キャップ
25	クイックファスナー
26	ジョイント
27	ビス
28	ストレーナ
29	シャワーヘッド
30	ストレーナ
31	シャワーフェイス
32	スパイラル銅管
33	銅パイプ固定ブッシュ
34	ホースガイドB
35	スリップ板
36	省施工ナット

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓 水抜き栓付止水栓

止水栓(別売)

(100mm)

3 本体の固定

① 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように、本体裏側のシートパッキンのセパレート紙をはがして貼り付けます。

② 六角ナット仕様の場合 六角ナットをプラグより下の位置で、ブレードホース(又はスパイラル銅管)とシャワーホースに横からはめ込み、上に上げて締め付けます。

省施工ナット仕様の場合 省施工ナットを天板にあたるまで上に押し上げてから締め付けます。

③ 銅パイプ固定プッシュがしっかりはまっている事を確認してください。外れている場合は、しっかりとめ込んでください。

【注意】 シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損の恐れがありますので、これらは持たないでください。

六角ナット仕様の場合 省施工ナット仕様の場合

シャワーホース ブレードホース(又はスパイラル銅管)

② 横からはめ込み、上に上げて締め付け

②-1 上へ押し上げる ②-2 締め付ける

天板にあたるまで上へ押し上げる

シートパッキン(本体に貼り付け)

取り付け穴 φ36~38

銅パイプ固定プッシュ(白) はまっているか確認

輪パッキン(黒) 菊座(スリップ板) 六角ナット(省施工ナット)

本体 正面シール

セパレート紙をめぐって両面テープで固定

取り付けには専用工具G11(別売)を使用すると便利です。

5

4-1 止水栓との接続(逆止弁付仕様、逆止弁無仕様とも接続方法は同じです)

① ジョイントを止水栓に接続します。

【注意1】 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付け不足、締め付けすぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約2000N・cm)

【注意2】 薄肉の接続管(ニップル等)には、ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れる可能性があります。

ジョイント 止水栓(別売) しめる スパナ等

5 シャワーホースの接続(ホースガイド付き・無し仕様、またそれぞれの一般地・寒冷地仕様によって接続方法は異なります)

ホースガイド付き仕様	ホースガイド無し仕様	接続方法
一般地仕様	寒冷地仕様	(各仕様の順番に従って行ってください)
①	①	同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。 【注意】 ホースガイドは壁面に固定しないでください。
②	②	シャワーホースに付いているホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、(1)ホースガイドAにはめ、(2)カプラーユニットが下向きになるように90度回転させます。 【注意1】 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、ブレードホース(又はスパイラル銅管)に引っ掛けたり、ひねったりしないでください。 【注意2】 ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。(C図)
③	③	上記と同様に、(1)同梱のホースガイドBをホースガイドAにはめ込み、(2)シャワーホースをホースガイドBに上から通します。
④	④	同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。 【注意1】 締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(締め付けトルクの目安=約200N・cm) 【注意2】 カプラーは樹脂製ですので、手で固く締め付けてください。シャワーホースをねじらないでください。 【注意3】 シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。破損する恐れがあります。
⑤	⑤	カプラーユニット(寒冷地仕様は水抜きユニット)はキャップをはずし、スライダーを下に降ろしてから、本体のプラグハカチと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下に降りている場合もあります。)最後に確実に接続されているか確認します。

※ 図はホースガイド付仕様

ホースガイドA はめ込む この部分にはめ込んでください プラグ

ホースガイドB 90度回転 カプラーユニット下向きに

平行にはめ込む 凸部 凹凸部が合っているか確認

A図 B図 C図(横から見た図)

シャワーホース ブレードホース(又はスパイラル銅管)

シャワーホース ホースガイドA ホースガイドB 1. はめ込む(上記参照) 2. 上から通す

パッキン シャワーホース セレーション部 ここに工具をかける シャワーホース プライヤー等で固定

水抜きユニット

降ろしていない状態 スライダー カプラーユニット 押し込む

降ろしている状態 スライダー カプラーユニット

【注意】 シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にはさって取り付けてください。

7

4-2

② ブレードホース(又はスパイラル銅管)をジョイントにはめ込みます。この時、ブレードホース(又はスパイラル銅管)はなるべくゆるやかに曲げてください。急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損の原因で漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

【注意1】 ・ブレードホースはR60以上、スパイラル銅管はR30以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。
・鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)
・上下戻り配管はやめてください。(B図)(ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動すると、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
・ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。

【注意2】 スパイラル銅管は同じ箇所での曲げは5回以内にしてください。

【注意3】 ブレードホース(又はスパイラル銅管)を曲げる際、銅パイプ固定プッシュがはずれないように注意してください。(C図)

【注意4】 ブレードホース(又はスパイラル銅管)は切断しないでください。

ブレードホース(又はスパイラル銅管) つば すき間なく合うまで差し込む

ジョイント

A図 B図 C図

銅パイプ固定プッシュ(白) はずれないように

③ クイックファスナーを、ブレードホース(又はスパイラル銅管)とジョイントのつばに、はめます。

ブレードホース(又はスパイラル銅管) クイックファスナー つば はめ込む クイックファスナー

【注意】 ブレードホース(又はスパイラル銅管)を上へ引っぱって、抜けないことを確認してください。

ブレードホース(又はスパイラル銅管) 抜けないことを確認

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホース(又はスパイラル銅管)にはめてから、クイックファスナーまで降ろします。

保護キャップ 1. はめる ブレードホース(又はスパイラル銅管) クイックファスナー 2. 降ろす

6

取り付け後の点検と清掃

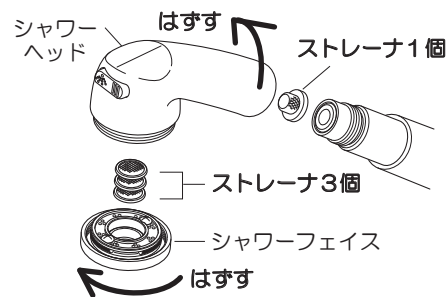
通水確認

【△注意】 水栓を取り付け後、通水して、湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがない事を確認してください。

ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのストレーナが詰まると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

- 湯水全開で20~30秒吐水させます。
- シャワーヘッドの根元とシャワーフェイス内のストレーナ(計4個)を取りはずします。



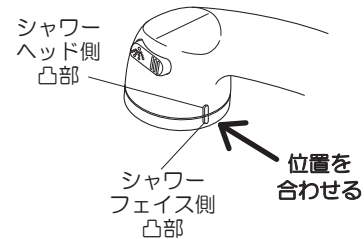
- ストレーナをブラシで水洗いします。



〈清掃後の組み付け〉

はずした逆の手順で組み立ててください。その際、シャワーフェイスを締め込む時、約3回転程締め込んで、シャワーフェイスの凸部とシャワーヘッドの右側面の凸部を合わせてください。

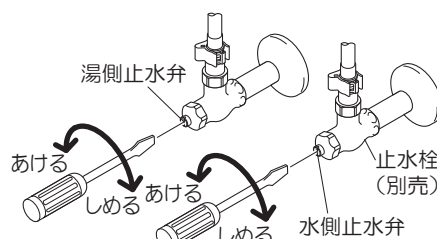
【△注意】 凸部を合わせたら、それ以上締め込まないでください。シャワーフェイスがはずれにくくなったり、破損するおそれがあります。



湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

上いっぱい上げて適量



故障かなと思ったら...

故障かなと思ったら、修理を依頼される前にまず各部の点検をしてください。

取扱説明書の日常の保守・点検・お手入れ 参照

8